



可児市立東可児中学校  
令和5年5月22日発行

「笑顔あふれる学校に」

教務主任 桑下正之

5月8日より、新型コロナウイルス感染症が第5類に切り替わり、少しずつコロナ以前の生活に戻り、活気のある授業や行事での姿が見られるようになりました。

現在、東可児中学校では体育大会の取組が行われています。本番に向けての練習が、学級そして団で行われています。コロナ禍では、学級ごとの練習でしたが、現在は、団でアドバイスし合ったり、お互いに見合ったりする姿も増えてきました。日常生活でも、友だちと外で元気よく遊んだり、図書館に行き、楽しく本を選んだりする姿が増えてきました。生徒の笑顔が校内でも、多くなってきたと実感しています。

東可児中学校の学校の教育目標である「自律・共生・創造」は、可児市が掲げる「笑顔のもと」に繋がるものだと感じています。授業の中で、「できた」「わかった」など、新たな気づきがあった時、自然と笑顔がこぼれます。係活動や行事でも学級の仲間と関わった時、結果だけでなく、その過程で一緒に頑張った時、生徒の表情には笑顔が見られます。



ある1年生の国語の授業で、積極的に挙手、発言をする生徒がいました。どんな発問にもしっかり向き合い、自分なりの考えをもち、それを仲間に伝えようとする姿がありました。また、その生徒はつぶやきや反応も多く、授業に前向きに取り組んでいる様子が伺えました。発問に対して、答えられたとき、また仲間が自分の考えに共感してくれた時、その生徒の表情にも笑顔が見られました。

体育大会の中間振り返りでは、学級の取組の様子を中心に、今の自分たちの姿を振り返っていました。振り返りの中で、どの学級にも共通していたことは、行事だけを頑張るのではなく、行事までの過程を大切にして、日常生活の姿をもっと充実させようというものでした。行事と日常生活の繋がりを大切にし、その経験を積み重ねることを通して、「進化」(生徒会スローガン)をしようとしているのだと感じました。



東可児中学校では、行事や日常生活で学級や学年のリーダーが中心となって頑張っています。しかし、頑張っているのはリーダーだけではありません。リーダー以外の生徒が、学級や学年のキーマンとなって陰で支えています。体育大会を終えた後の振り返りでは、そんな陰で支えてくれた仲間の存在にも気づくことのできる学級、学年であることを願っています。仲間に自分の良さや頑張り気づいてもらえた時、嬉しいですね。きっと、その生徒からは、笑顔が見られるはずです。どの生徒にとっても、安心して落ち着いて過ごせる、「笑顔あふれる学校」となるよう、生徒会、学校が中心となって活動を創造し、今後も教育活動を進めてまいります。

